

論文要約

氏 名 池知 良昭

1. 論文題目 (副題を含む)

終末期がん患者に対する作業療法士の実践自己評価尺度の開発

2. 論文概要

本論文は、第1章から第3章にて構成される。

第1章では緩和ケアチーム (Palliative care team : PCT) における作業療法士 (Occupational Therapist Registered : OTR) の役割を明らかにするため、がん診療連携拠点病院のPCT代表者とOTR責任者を対象に自記式質問紙調査を実施した。結果、OTRの役割として①全人的苦痛に関する評価・支援、②日常生活活動に関すること、③作業活動を通じたQuality of Life (QOL) 維持・向上、④家族に対するケア、⑤ PCTメンバー間の調整や支援、⑥ PCTにおける情報共有やOTRの視点に基づく助言・指導が抽出された。

第2章は、第1章の研究、文献レビュー、専門家会議より終末期がん患者に対するOTRの役割を明確にし、終末期がん患者に対するOTRの実践自己評価尺度 (Self-Rating Scale of Occupational Therapists for Terminal Cancer : SROT-TC) 各項目の内容的妥当性を検討した予備調査である。結果、77項目が採用された。

第3章は信頼性と妥当性を備えた、SROT-TCの開発を目的に行った本調査の報告である。結果、20項目からなる5因子構造が推測された。第1因子は【家族に対するアプローチ】、第2因子は【がん治療に対する支援】、第3因子は【患者の希望・意思の尊重】、第4因子は【他職種との協業】、第5因子は【患者の興味関心へのアプローチ】と命名した。SROT-TCは良好な構造的妥当性、内的一貫性が確保された。しかし、基準関連妥当性は相関を認めたが弱かった。今後、本尺度と作業療法士の作業参加状況との関連性の検討が課題である。